

岩手わんこそばラウンド報告書

5杯目!



平成29年2月11日(土) 岩手大学教育学部附属小学校
参加者 53名(神奈川、東京、埼玉、福島、山形、宮城、秋田、岩手)

- 1 公開授業 小学校第5学年 ボール運動ネット型「キャッチバレーボール」
授業者 菅原 純也 教諭
- 2 研究協議
- 3 単元構造図ワークショップ 中学校1、2学年 球技「ネット型」
- 4 情報提供・まとめ バレーボール

1 公開授業を見る

本時の目標「相手コートにボールを打ち返すことができる」(技能)



ネット型(アタックプレルボール)の簡易具

学習目標 (技能)ネット型では、簡易化されたゲームで、チームの連携による攻撃や守備によって(程度)運動に進んで取り組み、ルールを守り助けて運動をたたり、種や用具の安全(思)判)ルールを工夫したり、自分のチームの特性に応じた作戦を立てたりすることがで

	1	2	3	4	5
10	オリエンテーション 約束や決まりの確認	課題 ボールをつなぐ	課題 ボールを取る工夫	課題 得点を防ぐ(カバードキック)	グチ
20	ゲームの説明	ルール作りの試み ゲーム	つなぐ ①つか	アタックの動き ②つか	グチ
30	試みのゲーム	①つか	②つか	③つか	グチ
40	④責任	⑤責任	⑥責任	⑦責任	グチ
45	⑧責任	⑨責任	⑩責任	⑪責任	グチ
評価	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
思判	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑

簡易化されたゲーム「キャッチバレーボール」のラリーを楽しみながら、子供たちは課題解決に向けて意欲的に学習に取り組みました。菅原純也先生は、よいプレイや上達した子をよく褒め、課題の見られるプレイや態度に対してもきめ細やかに指導していました。

授業の後半は、相手コートにある「スペースをねらう」学習へと進んでいきました。目印をコートに置き、そこを意識させるという手立てが講じられました。

2 公開授業について熱く語り合う

小中高大の教員、学生、指導主事が、校種や立場を超えて、自由に感想等を交流しました。また、評価規準に照らし合わせ、観点別の学習成果について意見交換を行いました。

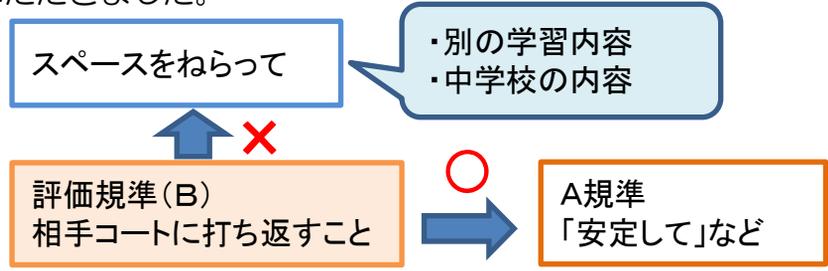


菅原先生の「自分の授業を斬ってくれ!」という熱意が伝わったのか、授業から学ぶことをひと通り共有した後は、お望みどおり、率直な意見が飛び交いました。

- ・「スペースをねらう」は中学校の内容ではないのか。
- ・検証ゲームは必要だったのか などなど



佐藤豊先生には、研究協議で話題になった「スペースをねらう」ことに関連し、評価規準の設定について解説していただきました。



A規準の設定は、技能であれば「再現性や円滑性を備えている」など、質的な高まりを評価すべきで、そこに別の学習内容を取り入れないようにすること。また、次の学習内容を先取りしてしまえば、次の学年や校種でのばらつきが生じてしまうこと。

「この子供たちであればここまでできそうだ」「できるだけ高めてあげたい」という思いは授業者にはあるものですが、たとえ東北の子供が九州に転校しても、北海道の高校に進学しても、同じように続けて学習できるよう、学習指導要領をふまえるという基本について確認したいものです。

今回は、菅原純也先生をはじめ附属小の先生方、子供たちのおかげで有意義な学びの機会を得ることができました。感謝感謝です。ちなみに、菅原先生は、前週はゴール型の授業公開をし、来月は外国語教育の授業公開を行うそうです。スーパーマンです。



中学校のバレーボール単元について考える

この附属小の子供たちが中学校に上がったとすれば、中1・2年生でどのようなネット型の単元が考えられるか、単元構造図ワークショップを行いました。短い時間ではありましたが11通りの単元計画が構想されました。どれが正解というものではありません。他グループの発表を聞いて、さらに自分たちの計画を見直しました。



次の学習指導要領はどうなる？

学習指導要領（案）が示される直前の多忙の中、午後から高橋修一調査官がかけつけてくださいました。現行学習指導要領の成果や課題から、私たちがこれから体育・保健体育の指導をする上で考えていかなければならないなど教えていただきました。ますます重要な教科となる実感を得ました。



お椀をさらに重ねて

東北・北海道の今年度最後のラウンドとなりました。各ラウンドの積み重ねがあつての今回です。各都県・県内の仲間と、今後もこれを重ねていこうと約束し散会しました。（その後は、盛岡の街でエンドレス?）

